

緊急提案（請願）

「消費税増税」論議とともに「日本長寿社会」構想を！

2012年8月10日

「消費税増税」法案が採択されました

わが国議会は、衆議院が平成24（2012）年6月26日、参議院が8月10日に、将来展望としての「日本長寿社会（高齢社会）」構想と形成へのプロセスを衆議し国民に示すことなく、「社会保障」の安定財源のためとして「消費税増税」法案の採決をおこないました。それが既成3政党の合意にもかかわらず国民に安心感を与えないのは、実態解決への参画ではなく、財政上のしわ寄せを国民に求めているからです。自民党は深く遠く「新世紀10年の失政」を省み、「国民主導の政治へ」を訴えて政権党となった民主党はマニフェストに掲げた「ライフ・イノベーション」の議論を広くすみやかに展開すべきでした。

身近な実感で申せば、先の大戦の戦禍のあと、辛苦して復興と発展に尽くした人びとの晩年の暮らしに手厚く報いる「社会保障」（「支えられる高齢者」への医療・介護・福祉）では成果を感じることができませんが、年ごとに増えていまや3000万人に達した高齢者（65歳以上）を体現者とする「日本長寿社会（高齢社会）」形成への実感はありません。国にその構想がなく高齢者にその意識がない（あっても活かさない）のですから進展のしようがありません。

後を継ぐ現役世代とともに、増えつつける「支える高齢者」（アクティブ・シニア）層が加わった「三世代同等多重型（つりがね型）社会」の充実による持続的な経済成長に対して無策であったこと、それを為政者は「失政」として省みたくえで国民に問いかけつつ参画を呼びかけること。それが「国民主導の政治へ」であり、増税とともに「内需による増収」への展望を合わせ論じてはじめて国民は納得がいくことになります。

「長寿社会（高齢社会）」の体現者として

一方、国政の無策をいう高齢者は、新世紀10年の「日本高齢社会」の体現者としてどう生きてきたでしょうか。1999年の「国際高齢者年」を機に、国連が21世紀の潮流として訴えた「高齢化社会」への対応、**高齢者五原則「自立、参加、ケア、自己実現、尊厳」**を、身をもって暮らしてきたでしょうか。同時代のみんなが協力して与えてくれた「長寿としての時間と居場所」つまり「人生65年時代」から「**人生90年時代**」への25年間を、そういう意識で過ごしているでしょうか。長年かけてつちかった知識・技術・資産を活用して、地域・職域に新たな「モノと場としくみ」をこしらえて、「みんな（all ages）のための社会」（1999年の「国際高齢者年」に掲げた目標）をめざして活動をしているでしょうか。体現者である高齢者の側の「自立、参加・・・」のありようを顧みるときでもあります。

このまま推移すれば、「天災人禍」の“国難”に遭遇して苦闘を強いられている現役若手層から批判を受け、高齢者への敬意が薄れ、“尊厳”を保って晩年を過ごすことができなくなります。

みんな（all ages）が安心して暮らせる「日本長寿社会」構想を！

国会議員のみなさんは政策として、各地各界のリーダーの方々はそれぞれのお立場で、そして一人ひとりの高齢者はみずからの暮らしの中で、「来日方長」（来たる日まさに長し）といえるような明るい展望のある「日本長寿社会」をめざして、日また一日、歩また一歩、みんなして史上初・国際的に新しい活動を展開しようではありませんか。

****提案（請願）者 **堀内正範**

朝日新聞社社友 高連協オピニオン会員 web「月刊丈風」編集人

日本文人の会 <http://joj.in.jp/> e-mail mhori888@ybb.ne.jp

tel & fax 0475-42-5673 〒 299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮 9340-8